

B—53 絹の洗たくに関する研究 第7報

収縮性, しわ回復性, 圧縮率, 圧縮弾  
性率について

学習院女子短大 齋藤 道香  
○菅原 珠子  
農林省蚕糸試験場 皆川 基

1. 白色絹織物の家庭洗たくによる黄褐変現象の追究と共に織物上に現われる物性の変化について検討をしているが, 今回発表の実験は収縮性・圧縮率・圧縮弾性率・しわ回復性の変化を通して, 絹織物の家庭洗たくの適否を検討することを目的としている。

2. 試料としては前回までと同じく, 羽二重と一越縮緬の洗たく処理回数(1~30回)洗たく方式(手洗い3種電気洗たく機1種)洗剤の種類(6種)など, それぞ

れ異なる洗たくをした布を標準温湿度状態下にて調整して試験布を作成した。前田精機製作所製圧縮弾性率・圧縮率をリンクルレカバリーテスターによって皺回復性を測定した。収縮性については洗たく反復途中において測定を行なった。

3. 強撚糸織物である一越縮緬は羽二重に比べて収縮率は非常に大きい。同一織物間においては処理回数10~20回まで縮み、さらに回数を重ねると伸びる傾向がある。よこ方向は羽二重の場合余り収縮せず、次第に伸びてゆく。洗剤・洗い方の違いにより僅少なながら差がみられる。圧縮率は回数を重ねるに従い、大きくなる。洗剤・洗い方には多少の差が見出される。圧縮弾性率は処理回数を重ねるとはじめ少なくなり10回位より大きくなる。すなわち、腰のない状態になる。洗い方、洗剤間にも差がみられる。しわ回復率は洗たくの反復による影響がみられる。